

H29年度 豊かな地域資源を活かした「温泉×健康」による持続可能なまちづくり事業(地方創生推進交付金事業) 評価・検証シート

事業名	温泉×健康によるヘルスケア推進事業
計画・実施年度	平成29年度～平成31年度

●KPI①の設定数値

KPI	温泉入浴者数(人)(増分)	(基準値)H28	H29	H30	H31
		1,036,000	40,000	20,000	30,000

●KPI①に対する実績評価

KPI	温泉入浴者数(人)(増分)	(基準値)H28	H29実績	H30	H31
		789,099	-4,729 (人数:784,370)		
目標数値に対する達成率			-11.80%		

●KPI②の設定数値

KPI	観光宿泊者数(人)(増分)	(基準値)H28	H29	H30	H31
		530,000	10,000	40,000	45,000

●KPI②に対する実績評価

KPI	観光宿泊者数(人)(増分)	(基準値)H28	H29実績	H30	H31
		537,189	-22,933 (人数:514,256)		
目標数値に対する達成率			-229.33%		

●KPI③の設定数値

KPI	疲労ストレス測定器を設置する施設の温泉利用者数(人)(増分)	(基準値)H28	H29	H30	H31
		212,000	20,000	10,000	10,000

●KPI③に対する実績評価

KPI	疲労ストレス測定器を設置する施設の温泉利用者数(人)(増分)	(基準値)H28	H29実績	H30	H31
		197,736	7,032 (人数:204,768)		
目標数値に対する達成率			35.16%		

●29年度事業の実績

(単位:円)

具体的施策	実施年度	事業費実績	財源内訳	
			地方創生推進交付金	一般財源
1 次世代ヘルスケア産業推進協議会の設置運営	平成29年度	135,000		
2 温泉入浴促進映像制作業務		1,649,268		
3 疲労ストレス測定器導入 4台		6,210,000		
4 ヘルスケア産業創出調査等支援業務		3,189,240		
5 玉川温泉岩盤浴地安全対策調査		5,940,000		
6 疲労ストレス測定器保守点検業務		43,200		
7 事業に係る消耗品・郵便料		167,559		
事業費計		17,334,267	8,667,133	8,667,134

●30年度事業の予算

1 次世代ヘルスケア産業推進協議会の運営	平成30年度	265,000		
2 映像コンテンツ制作		1,650,000		
3 疲労ストレス測定器保守点検・システム運用業務		520,000		
4 市内外ヘルスケア企業のマッチング事業		2,550,000		
5 ヘルスケアプログラムの開発及び周知		5,000,000		
6 ヘルスケアプログラムのモニターツアー		3,300,000		
7 事業に係る消耗品・郵便料		365,000		
事業費計		13,650,000	6,825,000	6,825,000

●31年度事業の計画

1 次世代ヘルスケア産業推進協議会の運営	平成31年度	270,000		
2 疲労ストレス測定器保守点検・システム運用業務		520,000		
3 パンフレットの多言語化(英語・中国語)		2,000,000		
4 ヘルスケアリズム海外プロモーション企画運営		3,800,000		
5 ヘルスケア産業事業発表会		410,000		
6 事業に係る消耗品・郵便料		360,000		
事業費計		7,360,000	3,680,000	3,680,000

● 具体的施策に対するPDCA

○取り組み内容(Plan)*29年度

- 1.仙北市次世代ヘルスケア産業推進協議会の設置・運営
- 2.温泉入浴促進動画の制作
- 3.疲労ストレス測定器の導入によるデータ蓄積
- 4.ヘルスケア産業推進に係る市内各種施設を対象とした調査
- 5.玉川温泉岩盤浴地の冬期安全対策調査

○どのような施策を実施したか(Do)*29年度

- 1.仙北市次世代ヘルスケア産業推進協議会の設置・運営
市が掲げるヘルスケアツーリズム推進に係る基本方針に基づき、豊富な地域資源を有効に活用した市民の健康増進とヘルスケア産業創出を目的に、産官学金による次世代ヘルスケア産業推進協議会を設置。
- 2.温泉入浴促進動画の制作(湯治—TOUJI— 動画時間約3分)
玉川温泉を中心とした映像コンテンツを制作し、正しい方法での温泉入浴方法とその効果を周知することで、市民の健康増進や観光振興を図った。協議会委員に配布し活用を依頼したほか、市のホームページ等で周知した。
- 3.疲労ストレス測定器の導入によるデータ蓄積
市内にある4ヶ所の温泉施設(花葉館、クリオン、東風の湯、アルパこまくさ)に疲労ストレス測定器を設置し、温泉入浴前後のストレス数値を測定し、データを蓄積した。
- 4.ヘルスケア産業推進に係る市内各種施設を対象とした調査
仙北市内の入浴施設及び農家民宿等を対象に、ヘルスケア関係機器の設置要望や産業創出についての要望・意見を聴取。市民の健康増進とヘルスケア産業の創出に向けた調査を行った。
- 5.玉川温泉岩盤浴地の冬期安全対策調査
ヘルスケア推進のひとつとして、岩盤浴地の冬期営業再開に必要なハード面、ソフト面における安全対策を検討、調査した。

○結果をどう分析するか(Check)*29年度

- 1.協議会の運営状況について
市民の健康増進とヘルスケア産業創出の二本柱による、ヘルスケアツーリズムの推進を目的に、関係機関との情報共有ができた。また「仙北市ヘルスケア宣言」に向けた具体的な施策展開の方向性を決め、事業の管理も行ったことから、本協議会は有効であった。
2回開催 平成29年11月13日(22名)・平成30年2月7日(20名)
- 2.温泉入浴促進動画の制作(湯治—TOUJI— 動画時間約3分)
動画完成後は、協議会委員へのデータ配布と、市のホームページなどでの動画周知に留まった。市内外の方々に安全かつ楽しく温泉に親んでもらうため、入浴促進映像を根気強く、周知していくことが重要と捉える。
- 3.疲労ストレス測定器の導入によるデータ蓄積
導入時期が年度末になったため、データ蓄積数は多くない。しかし、ストレス度合いの可視化により、健康への気づきの一歩となったことから、ある程度の評価はできる。継続的に温泉入浴前後のデータを比較し、温泉の有効性を示すことが重要。翌年度へ向け、温泉及びストレス測定器の利用者増に繋がるよう工夫が必要。
平成30年2月7日～3月31日までの延べ利用件数 2,104件
- 4.ヘルスケア産業推進に係る市内各種施設を対象とした調査
市内各施設へのアンケート調査では、調査対象92件中、回答が40件であり、回答率が43.5%と低かった。一方で、医療・介護・福祉分野施設の他に、生活や健康食関連、農家民宿といった、ヘルスケアと産業を組み合わせることが可能な事業をとりまとめすることにより、各種事業の掘り起こしにつながった。
実施時期 平成29年11月28日～12月12日 回収40件(調査対象92件中)
- 5.玉川温泉岩盤浴地の冬期安全対策調査
安全対策として、ハード面では、岩盤浴地周辺の掘削といった形状変更のほか、防護柵の設置など、数種類の可能性が示されたが、当該地域が国有地であることや、国立公園内であること、天然記念物の北投石産出地であることから、多くの規制がある。ソフト面では、従来の安全対策マニュアルを改訂し新たなマニュアルが作成された。しかし、ハード面に挙げたような工事を前提にしたものであり、ソフト面からの対策のみでは、全面再開が難しい現状である。調査結果を有効に使用し、対策工事の必要性を国へ訴えることが重要と捉える。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

温泉入浴促進映像については、市民や観光客が多く集まるイベント会場などで放映し、多くの人々に温泉の魅力や、安全な入浴方法に関心を持っていただくことが重要。SNSや広報で継続した周知に努める。
疲労ストレス測定器の導入については、市民や観光客が、温泉の入浴前後にストレス度合いがどのように変化するのか、自身の健康に気づきを持っていただくことが重要。利用者を増やすため、ポイント制度や抽選会など工夫のある周知と集客に努め、データの蓄積及び分析を継続することが重要。
市内各種施設を対象とした調査は、この調査結果をもとに、翌年度以降のヘルスケア産業創出への契機とする。
玉川温泉の岩盤浴冬期再開については、調査結果を活かし、国の関係機関や省庁に働きかけると共に関連施設との連携により、再開に向けた事業の具体化を図る。

有識者会議による検証・評価

意見

コメントなし

評価

○

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
△取組の見直し ×取組の中止・終了